

01 教会ニュース

主にあって一つになった私たち

日本の四つの支教会で記念礼拝と集会、主のしもべ教育と祈禱会が行われ、聖霊によって変えられる尊い時間になった。

02 いのちのみことば

水と血を注ぎ出されたイエス様

イエス様が注ぎ出された水と血は私たちを変えさせることができる力ある水と血であり、私たちを死から救ういのちの水と血である。

03 企画特集

信仰の成長を慕っているでしょうか

焦りを捨てて基本に忠実であり、みことばと祈りに絶えず励み、人と比べて気を落とさないとき、信仰が成長できる。

支教会1月スケジュール

04 証し

時間と空間を超えた祈りで！

末期卵巣がんがいやされた韓国のヤン・ヘヨン勲士と牧者の空間で守られて祝福されたコンゴ民主共和国のカエムベ執事の証し。

万民ニュース

第182号 2017. 12. 24.

MANMIN NEWS

TEL: 82-2-818-7063

www.manmin.org

神に喜ばれる教会になるには 日本の四つの支教会、記念礼拝及び神の力のハンカチ集会



今年10月20日から11月1日まで、名古屋、松本、東京、山形の四支教会で万民全支教会総指導教師イ・ヒソン牧師が集会を導いた。松本ではイエス・キリスト日本連合聖潔総会所属「主のしもべ教育及び祈禱会」があり、集会のたびに神の力チームの公演があった。

最初の集会は10月22日(主日)に名古屋万民教会(担任:時國みや子牧師)で開かれた。創立23周年記念礼拝の時、講師イ・ヒソン牧師は「目をさまさない」(第一テサロニケ5:4~6)というタイトルで「しっかりした岩の信仰に立つことと絶えず行いを見せて霊的に目をさましている」ように勧めた。午後のハンカチ集会では、堂会長イ・ジェロク牧師が接手して神の力が込められたハンカチ(使徒19:11~12)で祈ると、視力が回復し、全身のアトピー性皮膚炎、慢性頭痛、脳梗塞の後遺症などがいやされて、神に栄光を帰した。

23日(月)には飯田万民教会(担任:

柳承吉牧師)と老人福祉施設「みつばさ」を訪問し、24日(火)は松本万民教会で「主のしもべ教育及び祈禱会」が行われて、悔い改めと決断の時間を持った。

25日(水)には松本万民教会(担任:伊藤正明牧師)でハンカチ集会があった。イ・ヒソン牧師は「神に喜ばれる信仰」(ヘブル11:6)というタイトルで「聖書のマルタとマリヤ、エステル信仰の行いと自分を比べることで神に喜ばれる信仰になる」ように勧めた後、神の力の込められたハンカチの祈りを始めたが、いろいろな痛みがなくなり、聖霊の火を受けていやされた証しがあふれた。

特に34年間悪霊に苦しめられていた伊波和美聖徒(56歳)に、過ぎし日の罪を心を砕いて告白するようした後で祈ると、悪霊の勢力から解放されて、神に栄光を帰した。

27日(金)には東京万民教会(担任:チェ・ビョンラン牧師)で創立9周年記念礼拝及び神の力のハンカチ集会が

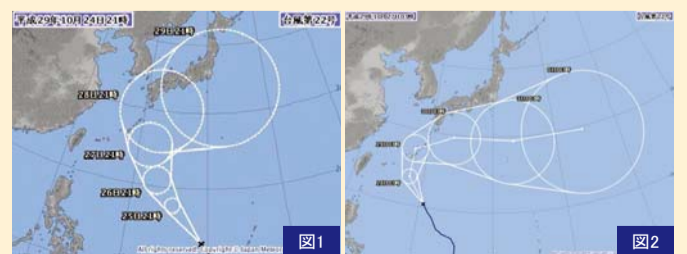
開かれた。イ・ヒソン牧師は「神に喜ばれる信仰」(ヘブル11:6)というタイトルで「良い口の言葉と肯定的な信仰の告白で神に喜ばれる」ように勧めた。続いたハンカチの祈りで視力が回復し、皮膚病、関節炎、外反母趾、鼻炎などがいやされた。

29日(主日)には山形万民教会(担任キム・ギルモ伝道師)で創立20周年記念礼拝及び聖霊の満たしを求める祈禱会があった。午前礼拝の時、イ・ヒソン牧師は「変化、牧者の実」(ペリピ3:12~14)というタイトルで「相手を認

めて赦す」ように勧めた。午後、聖霊の満たしを求める祈禱会の時、聖徒と一緒に踊って賛美で栄光を帰していたとき、ある聖徒のこわばっていた脚がやわらかくなってよく歩けるようになるなど、いやしのみわざが現れた。また、イ・ヒソン牧師のハンカチの祈りでうつ病、膝と骨盤脱臼などがいやされて、神に栄光を帰した。

今回の宣教を通していやしと変化、熱い聖霊のみわざで祝福して下さった三位一体の神にすべての感謝と栄光を帰す。

Power of GOD



今回の宣教日程は、堂会長イ・ジェロク牧師の祈りで台風21号がすみやかに消滅し、台風22号が予想(図1)と違い、速度が遅くなって進路が変わる(図2)など、良い天気の中で進められた。

水と血を注ぎ出されたイエス様



堂会長イ・ジェロク牧師

しかし、イエスのところに来ると、
イエスがすでに死んで
おられるのを認めたので、
そのすねを折らなかつた。
しかし、兵士のうちのひとりが
イエスのわき腹を槍で突き刺した。
すると、ただちに血と水が出て来た。
(ヨハネ19:33~34)

十字架のお苦しみの摂理を明らかに知れば、救い主を遣わしてくださった父なる神の愛とイエス様への愛が日ごとに加わる。それでは、イエス様が十字架刑にされた後に、すねは折られないうで、槍でわき腹を突き刺され、血と水をすべて注ぎ出された理由は何だろうか。

1. ローマの兵士が十字架につけられたイエス様のすねを折らなかつた理由

イエス様は十字架につけられて、ひどい痛みを受けておられたが、ついに死なれた。その日は金曜日だったし、その翌日はユダヤ人が聖なる日として守る安息日だったので、死体を木にかけておくことができなかつた。それで、ユダヤ人は総督ピラトに十字架刑にした人たちのすねを折って、死体を

取りのけるように願った(ヨハネ19:31)。

ローマの兵士たちはイエス様の十字架の左右につけられた強盗のすねを折って、死体を片づけた。十字架につけられた人のすねを折れば、それ以上脚で体を支えることができないので、早く息が絶えるからである。また、その当時、十字架刑にした人々は呪われた人々だったので、すねを折った。ところが、イエス様はすでに死んでおられるのが確認されたので、すねを折らなかつたのだ。

ここには明らかな神の摂理がある。<詩篇34:19~20>に「正しい者の悩みは多い。しかし、【主】はそのすべてから彼を救い出される。主は、彼の骨をことごとく守り、その一つさえ、砕かれることはない。」とあるとおり、イエス様はすべての人類の罪を負って木にかけられて死なれたが、責められるところのない正しい者であるから、神がイエス様のすねが折られないように守られたのだ。

また、<出エジプト12:46>や<民数記9:12>にも、出エジプト当時の民に、羊を食べてもその骨を折ってはならない、と命じておられる。ここで神に過ぎ越しのいけにえとしてささげた「羊」とは、イエス様を象徴している(ヨハネ1:29)。したがって、過ぎ越しのいけにえの羊の骨は折ってはならないと命じられたのであり、このような預言のことばのとおり、イエス様のすねは折られなかつたのだ。

2. イエス様がわき腹を槍で突き刺され、水と血を注ぎ出された摂理

<ヨハネ19:34>後半節に「イエスのわき腹を槍で突き刺した。すると、ただちに血と水が出て来た。」とあるとおり、ローマの兵士たちはすでに息が絶えているイエス様のわき腹を槍で突き刺した。

その当時、イエス様は頭にいばらの冠をかぶってむちで打たれ、手と足に釘を打たれたことで流された血によって凄惨なお姿だったし、すでに呼吸が絶えている状態だった。それでもローマの兵士が槍でイエス様のわき腹を突き刺したということは、人間にどれほど悪があるのかを現わしているのだ。

それなら、イエス様がわき腹を槍で突き刺されて、血と水を注ぎ出されたことの霊的な意味は何だろうか。

1) イエス様が人となって来られた証拠である

<ヨハネ1:14>を読めば、イエス様がどんな方なのかを知ることができる。「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。」すなわち、霊である神が人としての性質を持って現れ、この地上に来られた方だということである。イエス様は親の精子と卵子によってではなく、聖霊によって胎に宿られた。しかし、人間と同じようにお生まれになって、同じ成長過程を経られたので、救い主としてふさわしい資格を備えるようになったのだ。「人類の救い主になれる四つの条件」は、まず人でなければならぬ、不従順の罪を犯したアダムの子孫ではなく、敵である悪魔に勝つ力があって、命まで与えられる愛がなければならぬことだ。

したがって、イエス様は私たちのようにむちで打たれば痛みを感じ、疲れと渇き、空腹も感じられた(マタイ4:2;ヨハネ4:6)。このようにイエス様が人となつてこの地上に来られた方であることを確かなものとするために、ローマの兵士がイエス様のわき腹を槍で突き刺すと血と水が出て来たことと記してあるのだ。

2) 肉を持っている人も神のご性質にあずかれるという証拠である

<マタイ5:48>に「だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。」とあり、<第一ペテロ1:16>にも「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならぬ」とある。また<ピリピ2:5>には「あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。」とあり、<第二ペテロ1:4>には「その栄光と徳によって、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。」とある。

イエス様は人となって来られたが、ど

んな罪も犯さなかつたし、聖なる生き方をなされた。人と同じようになられたので人のような感情を感じたが、真理だけで生きておられた。すなわち、私たちもイエス様のように聖で完全であり、キリスト・イエスの心構えでいて、神のご性質にあずかることができるということである。

誰でも主を信じて火のように折って努力すれば、神の恵みが臨んで強くされ、聖霊に助けられて罪と悪を脱ぎ捨てることができる。「イエス様は神の御子だから聖なる生き方がおできになったけれど、私は弱い人だからそうできません」と弁解できないということだ。

3) まことのいのちと永遠のいのちに導く力ある血と水だという証拠である

原罪も自分で犯した罪もないイエス様の血は聖く、責められるところのない尊い血である。このようなイエス様の尊い血によって、私たちがこれを信じることで罪が赦されて、永遠に生きられる。また、水は霊的に「みことば」を意味するので、神のことばを聞いてそのとおりに行っていくほど、罪の性質が脱ぎ捨てられて正しい人になるのだ。

それで、イエス様が注ぎ出された血と水は私たちを変えさせることができる力ある血と水であり、私たちが死から救ういのちの血と水である。したがって、イエス様が槍で突き刺されて、血と水を注ぎ出されたことは、私たちがイエス様のゆえに罪が赦され、みことばどおり生きられるよう強くされて、まことのいのちを得るようになったことを証している。

愛する聖徒の皆さん、

イエス様はご自身が苦しみにあわれることによって数えきれないほどの魂が救われることを思われたので、ただ喜びと感謝をもって苦しみの道を歩まれた。他の誰かのためではなく、皆さん自身を救うためにすべての苦しみにあつて、水と血を注ぎ出されたのだ。

したがって、主の愛を深く悟って、すみやかに罪の性質を脱ぎ捨てて神のかたちを取り戻し、栄えある天国で永遠のいのちと祝福をいただくように、主の御名によって祈る。



Tel: 82-2-818-7063
Fax: 82-2-818-7048
www.manmin.org
e-mail: jujinkyung@hotmail.com



Tel: 82-2-824-7107
Fax: 82-2-813-7107
www.gcntv.org
e-mail: webmaster@gcntv.org



Tel: 82-2-818-7039
Fax: 82-2-830-5239
www.wcdn.org
e-mail: wcdnkorea@gmail.com

万民ニュース

Japanese

発行人: イ・ジェロク
編集者: ピン・グンソン
www.manmin.org/Japanese
www.manminnews.com
編集発行: 万民中央教会
〒08389 韓国ソウル市クロ区デジタル路26キル29
TEL: 82-2-818-7063 FAX: 82-2-818-7048

信仰成長の秘訣

主を受け入れて聖霊を賜物として受ければ、霊的には生まれたばかりの赤ちゃんのようだ。このように生まれたばかりの子どもの信仰から信仰生活が始まる。それ以後、若い者、父の信仰(第一ヨハネ2:12~14)と一つ一つその段階を経て成長するようになるが、ひとりひとりの行いによって個人差が生じる。三つの分野で信仰成長の秘訣を調べてみるが、神に喜ばれる全き信仰の量りにすみやかに至れるように。

焦らないで基本的なことから行わなければなりません

信仰の成長において、神の愛のうちに全き信仰の量りに至れるという確信を持つことは非常に重要だ。もし焦る心で「私はなぜ信仰がこれしかないか」と思うなら、かえって信仰が成長するのに邪魔になるだけだ。

私たちが霊的成長を遂げるには、まず御霊によって自分の姿を悟らなければならない。ところが、焦れば肉の思いが先んじるので、心の声に耳を傾けられないからじれったくなるばかりで、自分の姿があまり悟れない。

みことばを通して欠けている姿が発見されても、捨てる力が湧いてこないから、変えられなければならないという思いにかえって心が抑えつけられて苦しむだけだ。



霊の信仰は神が下さるものであり、聖めの恵みと力も神が下さる。だから、自分の信仰は「これくらいになるべきだ」という線を定めてはならない。焦るからといって信仰が成長するのではなく、着々とその段階を踏んで上がらなければならない(ローマ12:3)。

雑念にふけらず、居眠りせずに霊とまことによって礼拝をささげ、絶えず火のように祈り、賛美する時も御霊によって一節一節に心を込めてささげ、毎日聖書を読んで口ずさむなど、基本的なようだが非常に重要なこのようなことが積み重ねられて大きい信仰になるからである。捨てられなかったことが捨てられるように、できなかったことができるように、神の恵みをいただいて強くされるように求め、今すぐできる一番小さいことから信仰によって行っていけばよい(ルカ11:11~13)。

説教を聞く時にどれほど心に留めたのか、みことばを行うためにどのように努力したのかチェックしてみて、新しい心で一つ一つ完全に行おうと努力すれば、聖めの道へと導かれる神の愛と関与を具体的に感じることができる。

みことばと祈りが両方なければなりません

みことばどおり変えられるように強くされるためには、父なる神の愛を悟らなければならない。その愛のうちにいてこそ自分を発見できて、真理を行っていけるよう強くされるからだ。

ところで、愛を悟るためには、みことばと祈りが両方なければならない。みことばを聞いてこそ全き信仰とは何か理解できるし、真理と真理でないものを見分けることができるし、自分の信仰をチェックして、変えられるべきことが悟れる。

私たちが祈らなければ、いくらみことばを聞いても悟れなかったり、自分に正しく適用したりできない。たとえ自分に当てはまるみことばだと悟っても、捨てる力が与えられないから、そのみことばがかえって重荷になるだけだ。しかし、祈れば、みことばが善だと悟れ、みことばを通して自分を悟らせて変えさせてくださる神の愛が感じられる。



最も良いものを与えようとなさる神の愛を悟れば、祈りが変わってくる。主にあってどう行おうべきか知っているのだから、具体的に祈らないで、ただ「間違っていました。お赦してください」「悔い改めます」と祈ったり「これも捨てて、あれも捨てるようにしてください」と義務的に祈ったりしない。

「私を造られ、私に良いものを下さり、導かれる父なる神様、お父様を愛していますので、そのみこころのとおり完全に行えるようになりたいのです。まだ捨てられない罪と悪も早く捨てるようにしてください、ただお父様の慰めと喜びになるようにしてください。その愛のうちに恵みを加えてさらに強くしてください、お父様の近くにとどまれるようにしてください。」このように喜びと感動の祈りの中に父なる神の愛をさらに深く感じながら、全き信仰へと成長していくものである。

他の人と比べて気を落とすことがあってはなりません

父なる神の愛が心に満ちているなら、自分を他の人と比べなくなる。神が自分を愛し自分が神を愛するので、すべての人とその愛を分かち合うことのできる心の豊かさが生じるのだ。ところが、この愛が感じられなければ、他の人と自分を比べようになる。自分がもうちょっと先んじていると思えばほっとするが、相手のほうがまさっているようなら、焦って不安になり、悲しんで気を落とすのだ。



自分の信仰の量りの中で最善を尽くして走って行く人はすべてのことに良いほうに思う。愛する人がほめられて認められれば、自分がほめられたように幸せを感じるように、神の愛で心を満たせば、周りの人にも愛をもって対することができる。また、神の愛のうちに熱心に走って行って、ついに全き信仰を持つことを信じる。

他の人が先んじているとしても感謝し、自分が先んじたとすれば、相手のために祈って力になれるので、これもまた感謝なことなのだ。だから、心の中に神の愛が満ちていて、すべてのことに真理を喜べるように。変化の行いにおいて重要なのは、どれほど神を愛そうと努力して、どれほど恵みを慕うかという点だ。

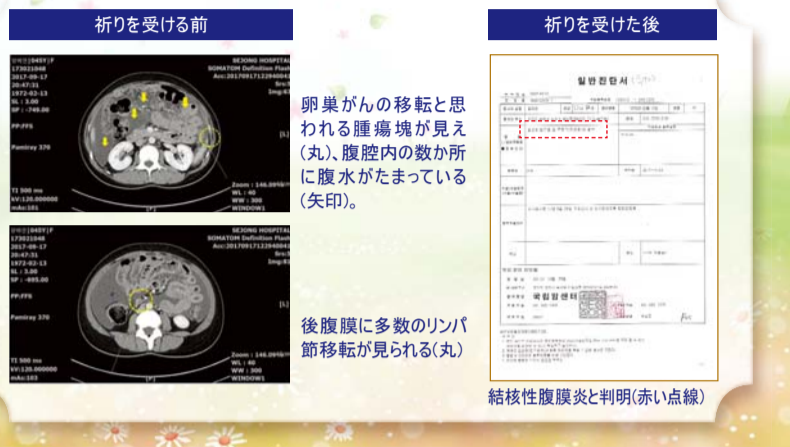
聖霊によって強くされれば、いくら欠けたところの多い心もやせた心の地も変えられることができる。「はたして私は心をどこに置いているのか」「本当に神様を愛して新しいエルサレムにだけ望みを置いているのか」と自分の信仰を直視することで「私を召して導かれる父なる神様が必ず私を全く聖なるものとしてくださり(第一テサロニケ5:24)、きっと新しいエルサレムに導き入れられる」という望みをもって、火のような祈りの香をささげながらみことばどおり行って、全き実として出て来るように。

1月支教会スケジュール

1月23日(火)	名古屋万民教会	癒し集会 (講師:時國みや子牧師)	1月28日(日)	大阪万民教会	リバイバル癒し聖会 (講師:キム・モニカ牧師)
1月28日(日)	舞鶴万民教会	リバイバル癒し聖会 (講師:キム・マルコ牧師)	1月31日(水)	飯田万民教会	権能いやし聖会 (講師:柳スズキ牧師)

「神の力で新しく生まれました」

ヤン・ヘヨン勸士(47歳、3大大31教区)



卵巣がんの移転と思われる腫瘍塊が見え(丸)、腹腔内の数か所に腹水がたまっている(矢印)。

後腹膜に多数のリンパ節移転が見られる(丸)

結核性腹膜炎と判明(赤い点線)

2017年9月11日(月)から熱のある風邪の症状と筋肉痛がありました。たいしたことないと思っていましたが、四日目の15日(金)夜、突然お腹がふくらみ始めました。妊娠9か月のように腹水がたまってきて、17日(主日)夕方、総合病院の救急室へ向かいました。血液検査とX線、CT撮影を終えた結果、「CT上では卵巣に問題があることがわかりました」と、産婦人科の専門医のところに行ってみるよう言われました。

18日(月)午前、産婦人科に行くと、お医者さんは「卵巣がんですが、大きくて形がとても不規則で悪性だし、あまりにも所見が良くないから、大学病院に行ったほうがいいでしょう」と言いました。私は大学病院に移って、その分野で有能だという特診外来の教授にみてもらいました。腹水をまず抜いた後、教授は前の病院か

ら持って来た診療記録とCTを確認して「卵巣がんの可能性がほぼ90%ですが、あまりにも移転が早い部分なので、PET-CTを撮ってどこまで転移したのか検査しなければ」と言いました。

20日(水)、再び病院に行つてPET-CT撮影をすると「卵巣がん末期99%なので、直ちに手術しなければ」と言われました。さらに、手術をしても8時間以上かかる大手術になるだろうし、命の危険を覚悟しなければと言われたのです。

その時はじめて私は堂会長イ・ジェロク牧師先生に祈りを受けること以外には方法がないと思いました。切羽詰った心で22日(金)、祈りの家におられる堂会長先生に悔い改めの手紙とともに心を込めてお礼を準備して、祈りをお願いしました。その間にイ・スジン牧師先

生にハンカチの祈り(使徒19:11~12)を受けると、腹水はそれ以上たまらなくなったのです。

24日(主日)夕方、堂会長先生が私のために祈ってくださったと伝え聞いたら安心して「神様が働いてくださるのだけ待てばいいんだ」と思いました。翌日の25日(月)には、6日前に予約した国立がんセンターに行きました。

教授は前の病院から持って来たCT写真を見て内診すると「がんが大腸から始まって卵巣に行った可能性もあるので、組織検査までもう一回しなければ」と言いました。また「がんがずいぶん広がっていて形も良なくて、坑がん治療をすぐ始めなければなりません、ひとまず検査をもっと詳しくしてみましょう」と言い、私はその日に入院しました。血液検査、X線、腹部CT、乳房・腹部組織検査など数日間、頭からつま先まで検査が行われました。

ついに28日(木)午前、1次組織検査の結果が出ましたが、あまりにも驚いたことに「慢性炎症」という所見だったのです。私が驚いて尋ねると、教授は「がんの所見が見られない」と言い、「結核菌が腸に浸透して腸から炎症を起こしたようだから、呼吸器内科に連絡して炎症の治療をしなければ」と言いました。

あっという間に状況は変わって、その日の午後、呼吸器内科では「がんではないと言われているでしょう。呼吸器のほうを検査します」と言われたし、乳房検査担当の先生は私の診療記録にざっと目を通して「がんではないとなっていますね」と言われたのです。

翌日の29日(金)、私はこれ以上病院にいる必要がないという言葉聞いて、退院しました。その後10月23日、2次組織検査の結果、がんではないと確かに言われました。ハレルヤ!

霊肉ともに新しく生まれるように祝福して下さった三位一体の神様にすべての感謝と栄光をささげます。

「死の危機から息子を守って、私に昇進の祝福も下さいました」

ラシディ・アルファナ・カエムベ執事
(59歳、コンゴ民主共和国、キンシャサ万民教会)

2010年11月、イスラム教徒だった私は弟の伝道で万民の羊の群れになりました。堂会長イ・ジェロク牧師先生の説教「十字架のことば」にとっても恵みを受けて、家族に伝道したら、今は家族全員が一緒に教会に通っています。私たちは万民教会に出会って、牧者の空間の中で守られて、祝福もされています。

2年前に軍隊に入隊した長男は、訓練を終えてコンゴのブニア市の反乱軍との接戦地域に配置されました。ところが、交戦中、上官は銃で撃たれ、隊員は爆弾に当たって全員死亡しましたが、息子だけは無事だったのです。ハレルヤ!

私たち夫婦が息子のために、堂会長先生が按手して神の力が込められたハンカチ(使徒19:11~12)で担任の牧師先生の祈りを受けたので、息子だけは神様に守られたのです。

その後、息子は大統領所属の部隊に転属されましたが、今年4月初めにはカサイ暴動地域に派遣されました。そこも前に派遣された警察官が全員殺されるほど危険な所でした。でも、私たち夫婦が堂会長先生をお願いして、時間と空間を超えて祈りを受けたので、この時も息子は無事にキンシャサに帰って来ました。

このように神様の驚くべき愛を体験したので、私はその方のみことばどおりに生きたいと思いました。私は警察の企画部に勤めていましたが、上官の妨害で、数年間国家から出る危険手当とその他の手当を一度ももらったことがありませんでした。それでもただ善をもって行おうと、もっと周りの人たちに仕えながら任された仕事に最善を尽くしました。神様が必ず祝福してくださると信じて祈り、経済的な困難も感謝の

心で耐え忍びました。

そうしていた今年8月、「2017年万民夏のキャンプ」の時、堂会長先生の時間と空間を超えた祈りで、私は思いがけない大きい祝福をいただきました。警察企画部の部長に昇進したのです。ハレルヤ!



主日大礼拝、主日夕方礼拝、金曜徹夜礼拝はソウルの万民中央教会の礼拝をNSS-6衛星で同時にささげています。

・イエス・キリスト飯田万民教会
〒395-0807 長野県飯田市鼎切石 3883-4
T) 0265-56-8286
<http://iidamanmin.to.cx/>

・名古屋万民教会
〒465-0014 名古屋市名東区上菅 1-916
T) 052-774-8874

・イエス・キリスト山形万民教会
〒999-3716 山形県東根市蟹沢 1486-4
T) 0237-43-0771

・イエス・キリスト別府万民教会
〒874-0924 大分県別府市餅ヶ浜町 4-41
T) 0977-23-8980

・イエス・キリスト大阪万民教会
〒591-8023 大阪府堺市北区中百舌島町5-775-15
T) 098-914-3027 FAX兼用
<http://www.osmanmin.com/>

・イエス・キリスト旭川万民教会
〒071-8144 北海道旭川市春光台4条 3丁目 11-23
T) 0166-53-0652

・イエス・キリスト東京田端万民教会
〒114-1102 東京都北区田端新町3丁目36-1 栄ビル2F
T) 03-3809-3326
<http://tabata.manmin.or.kr/>

・イエス・キリスト松本万民教会
〒399-0033 長野県松本市笹賀 4343
T) 0263-57-0003

・イエス・キリスト舞鶴万民教会
〒624-0913 京都府舞鶴市上安久 138
T) 0773-75-5656
<http://www.manmin.jp/>

・岡山万民教会
〒716-1321 岡山県高梁市有漢町有漢3206
T) 0866-57-9691

・イエス・キリスト東京万民教会
(東京万民宣教センター)
〒167-0051 東京都杉並区荻窪 2-29-13
T) 03-6915-1740

・イエス・キリスト沖縄万民教会
〒901-2212 沖縄県宜野湾市長田1-28-10 サンライフ米須301号
T) 098-988-9472